

# 会 議 録

## 1 会議名

平成28年度第13回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【自主的審議事項】

直江津のまちづくり構想について（公開）

## 3 開催日時

平成28年11月17日（木）午後6時00分から午後7時52分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、  
青山義一、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、小林克美、  
田村利男、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、水澤敏夫  
(欠席3名)

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主事

## 8 発言の内容

### 【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：久保田委員、小林委員に依頼  
議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

### 【荒木係長】

まず、11月19日（土）開催予定の「直江津のまちづくりを話し合う会（3回目：女性対象）」（以下、「話し合う会」）の進め方について説明させていただく。

- ・当日の出欠確認
- ・現時点の住民の方の申込み状況を報告
- ・3班体制での実施
- ・進め方は1回目と2回目と同様
- ・1回目と2回目に出た意見を参考資料として配布
- ・当日の委員の集合時間について確認

### 【青山恭造会長】

事務局の説明に対し、「話し合う会」が2回終了したことを踏まえ、皆さんから意見等があれば出していただきたい。

（意見なし）

では、説明のとおり進めることとする。

引き続き事務局へ説明を求める。

### 【荒木係長】

第11回の地域協議会において、自主的審議事項「直江津まちづくり構想」について、班ごとに分かれて、これまでの審議内容を振り返りながら意見交換を行っていただいた。また、10月22日（土）と11月1日（火）に開催した「話し合う会」では、住民や住民団体の方からも意見をいただいたので、本日は、そこで出された意見を参考にしながら、改めて、直江津区地域協議会として、何を課題として、それを解決するためには、どんな取組が必要なのか、今後の審議の進め方について協議していただきたい。

参考に配付した資料は、1回目と2回目で出された意見を羅列しただけだが、11月19日（土）の全3回が終了した時点で、テーマ毎に整理したいと思っている。

今後の審議の進め方の方法として、1つは、これまでどおり3班に分かれて、何を重点的に取り組んでいくかを話し合っただき、それぞれ違うテーマを掲げて協議する方法である。班での協議後、委員全体の中でそれぞれの協議内容を共有しながら審議を進めていく。

もう1つは、重点テーマを1つに絞り、審議していく方法である。委員全員での協議では、なかなか内容が深化しない、ということであれば、3班に分かれて協議し、その

後、委員全体の中でそれぞれの協議内容を共有しながら審議を進めていく方法である。

以上のどちらかの方法での進め方を提案する。

一方、話し合う取組の内容については、昨年度行った「新水族博物館を活用した直江津のまちづくりを話し合う会」で整理した「中・長期」の取組を詰めていくやり方がある。

もう一つは、「話し合う会」で出されている、直江津のまちづくりについての様々な取組について、新水族博物館と関わる部分もあると思うが、例えば、駅前の賑わいの創出や商店街の活性化、朝市、歴史的な建造物のPR、駐車場不足の問題、渋滞対策等の中から、何を重点的に取り組むか検討するやり方である。

以上、本日は、審議の進め方について協議し、方向性を出していただきたい。

#### 【青山恭造会長】

事務局の説明に対し、意見等はあるか。

(意見なし)

では、参考として、私が委員として参加している「新水族博物館を核とした地域活性化検討委員会」の進捗状況について報告させていただく。

私は地域の代表として、直江津地区町内会長協議会から推薦を受けて参加しているが、五智地区からは、大竹さん（小丸山団地の町内会長）が参加している。検討委員会のリーダーは上越教育大学の吉田准教授である。

検討委員会では、7つの取組に絞り、それを3班に分かれて協議している。

取組の一つに「水族博物館とまちの相互の情報発信(水族博物館PR事業)」があるが、各商店街と町内会、直江津南小学校校長が事業メンバーとなり、水族博物館と連携し、「すいはく新聞」等で情報発信する事業である。今後、上越教育大学の学生や小・中学校の児童生徒からの情報も取り入れていく予定でいる。

次に「商品開発と物販の仕組みづくり」があるが、直江津菓子組合、小・中学校の児童生徒、水族博物館の館長が事業メンバーとなり、まずは、水族博物館の中で直江津小学校の児童が物販を行った。また、11月7日(月)に直江津の菓子屋3店舗が直江津小学校に出向き、児童から直江津をPRできるようなお菓子のアイデアを募った際、「キャラクターを作ってほしい」というアイデアが出された。現水族博物館は、日本一のマゼランペンギン飼育数なので、それも含めて考えてほしいとのことだった。

次に「ようこそ直江津おもてなしプロジェクト」についてだが、ステッカーや休憩用

のベンチを作製している。休憩用のベンチは、子ども達がペインティングをして、「互この市いち」と水族博物館近くに1基ずつ設置する予定である。

次に「街なかの特典プランづくり」についてだが、水族博物館への来館者に商店街のクーポンを配る、ということで、すでに実施されている。それと、10月30日(日)に海浜公園で「マゼランペンギンフェスタ」を開催した。そこには、約3,400人が訪れ、売上等も良好であったという報告を受けた。

次に「水族博物館⇄商店街まちなかめぐりプロジェクト」だが、ここでは、ホームページを立ち上げたが、もう少しサイト内に画像を取り入れる必要があるという課題が出ている。

次に「まちなか水族博物館」についてだが、「鉄道まつり」において直江津駅北口に熱帯魚の水槽を設置した。海水魚の展示等も考えているが、管理が難しく業務委託している。「まちなか水族博物館」は好評で、寄付を申し出た方もいた、と新聞に載っていた。現在は、上越妙高駅への設置を検討している。

次に「直江津マッププロジェクト ジャンル別マップ」についてだが、上越教育大学の学生がマップを作成し、1,800部配布したとのこと。来年度の取組は未定だが、続けていきたいとのことである。

以上のようなことが検討委員会で話し合われている。

検討委員会の活動のように、直江津区地域協議会でも具体的に何を進めていけばいいのか、皆さんからも意見を出していただきたい。

また、参考情報だが、皆さんは、三・八朝市の出店料がいくら掛かるか御存じか。臨時出店は120円ということで、出店料の安さに驚いている。上越市の観光振興課へ申し込めば、フリーマーケット等でも出店できるので、地域協議会での課題検討の参考にしてほしい。

皆さんから何か意見等はあるか。

#### 【田村雅春委員】

「話し合う会」では、「観光」、「住みやすさ」、「子どもたちに関する事」というような、水族博物館とは別の視点での意見があった。その中で私は、空き家が出ないように、次の世代へ繋げられ、住んで良かったと思えるような地域づくりをテーマとして考えたいと思った。

また、昨年度の「話し合う会」でも「水族博物館へ向かう動線の問題」の意見が出た

が、その根底にある問題として、どこまで行政支援が受けられるか分からないが、私有地を削ってまで雁木を造ることに対する「雁木の問題」や、後継者問題を含む「空き家問題」があるので、知恵を絞った対策が必要なのではないかと考えている。私も、今のところ、漠然とした考えでしかないので、皆さんの意見を聞きながら、考えていきたいと思う。

#### 【増田副会長】

今回、出していただいた意見をまとめていくと、いくつかのテーマごとにグループができると思う。その中で、直江津区地域協議会として、テーマを1つに絞る訳にはいかず、いろいろなテーマに取り組まなくてはならない。ただ、時間的な制約があるので、優先順位を決め、考えていくことでよいのではないか。それが、「まちづくり構想」だと思いがどうか。

とりあえず意見をグループ化し、内容を確認しながら、考えていけばよいのではないか。

先ほど、事務局から進め方について説明があったが、班毎にテーマを決め、違ったテーマで取り組む方法と、同じテーマを班毎で話し合う、という2つの進め方があったが、同じテーマで班毎に取り組むと、かなり時間が掛かってしまう。

別々のテーマを班毎で話し合うと、3つのテーマを同時に進めることができる。

ある程度の期間で一定の方向を出していかなくてはならないとなると、班毎にテーマを決めて取り組んでいただき、全体協議で結論を発表しながら、それについて議論する、という進め方のほうがよいのではないかと考えているがどうか。

#### 【町屋委員】

私は、3班に分かれ、テーマ別に話し合うということが苦手である。

各グループで話し合いをした際、ある程度の方向性が出ると思う。そのグループ内で一所懸命議論して出た意見は尊重するという風潮の中で、全体協議では意見しづらい。多少時間が掛かっても、1つの大枠のテーマで班毎に意見を出し合えば、同じテーマなので、意見が食い違えば、皆さんで摺り合わせができる。そちらのほうが丁寧な議論ができるのではないか。

先ほど、田村雅春委員が言ったような「まちづくり」は重要だが、協議の時間を考えると、どうしても優先順位が下がってしまうのではないか、という不安がある。水族博物館に関することが、喫緊の課題であることは分かるが、それが全てではなく、他の課

題も喫緊であるという理由がないと、なかなかそれには乗りづらい。

例えば「観光」よりも「雁木を通りやすくしてほしい」という意見を持っている人が多いのであれば、それが、このまちの喫緊の課題である。

先ほど、青山恭造会長から菓子屋3店舗の話が出たが、その方たちが、自分たちの担当分野について、ワークショップをやることには意味があると思う。だが、直江津区地域協議会で話し合うことは、そうではない。みんながフラットな目線で物事を語ることができる会なので、あえて、専門分野のチームのように分けることが良いことなのかどうか、皆さんからの意見を聞きたいと思う。

#### 【磯田委員】

基本的に、町屋委員、田村雅春委員が言ったことに賛成である。

「地域協議会でやるべきことは何か」というところを踏まえ、「直江津まちづくり構想」にこだわっていかなくてはいけないと思う。我々地域協議会は事業の実施主体ではない、ということが、まず、大前提である。一つひとつのテーマについて「いつ、誰が、どこで、どういうことをやっていくか、どのように成果を出していくか」ということを、地域協議会で深掘りするのではなく、直江津にあるたくさんの課題を整理する、あるいは、直江津区が持っているポテンシャル（潜在的な能力）等を整理しながら、直江津区全体として、どう活性化に繋げていくか、まちづくり構想の大枠を地域協議会が考えて主導していくということが必要なのではないか。

「協議の時間」という話が出ているが、短期的に勝負するものではないと思う。少なくとも2年くらいの長期的な期間で、具体的な構想を築き、実現に必要な取組について検討するといった根本的な議論をしたほうがよいのではないか。

地域協議会は実施主体ではないので、実施主体となる市民団体や町内の方たち、協賛してくれる企業等と課題を共有し、自分たちでできることに取り組むなど、体制づくりが必要である。

まずは、地域協議会として、直江津のグランドデザインを行政と作っていくための仕掛けづくりを行わなければならないと思う。

#### 【青山恭造会長】

仕掛けづくりだが、昨年も新水族博物館を活用した取組を「短・中・長期」に分類し短期の取組を検討したが、「中・長期」がまだ未検討である。その辺の仕掛けをどうするか。

**【町屋委員】**

地域協議会で何かに取り組むというよりは、「このまちには、そういう活動が欠けている、そういう活動が出てこないかな」という提案をしておいて、例えば、地域活動支援事業で提案された事業が、地域協議会が抽出した課題に対する解決策として提案されてきていけば、優先的に配慮する、という投げ掛けでもよいと思っている。私たちは、すべての問題を解決できる訳ではない。そういう課題を表に出していくことが、情報発信になるのではないかな。

**【青山恭造会長】**

その辺をはっきりしておかないといけないのではないかな。意見を出してくれた方たちから「どこまで進んでいるのか」聞かれたときに、「ここまで進んでいる」ということをきちんと言えるようにしておくことが一番大事なのではないかな。意見を羅列しただけでは駄目である。

**【中澤委員】**

あまり成果を求めなくてもよいのではないかな。「話し合う会」の1回目と2回目では別々の方が参加している。地域協議会の役割は、住民からの意見を聞くこと、その中からどのような課題があるのかを協議会の中で詰めていくこととし、「話し合う会」の中で詰める必要はないのではないかな。極論を言えば、住民からいろいろな意見を聞き、参考にするという考えだけでよいのではないかな。

**【町屋委員】**

会長には、出席していただいた方たちの意見を無下にはできない、というプレッシャーがあるのかもしれない。だが、結局、意見の一つであって、それに対する議論はなされていないかもしれない。とにかく「話し合う会」のスタンスは、「意見を承る会」というだけで、「話し合う会」で出た意見を全て実現に向けて取り組もう、ということにはならない。意見に対する成果を出せるかどうかを怖がっているのは、議論も進まない。

**【青山恭造会長】**

増田副会長は、「話し合う会」を行い、出た意見から予算化できるものは行政に挙げたいと言われている。

**【町屋委員】**

地域協議会でも、出された意見については議論していないので、意見の中には相反するような意見もある。すべての意見を取り上げるのではなく、例えば、相反する意見の

どちらを優先するか、班毎に議論していくことが必要である。

**【増田副会長】**

中澤委員が言われたように、地域協議会は住民の意見を聞くが、一つひとつに対処していく役割はない。要は、住民の皆さんの思いを大まかに把握した中で、地域協議会として課題を整理しながら、どういうふうに進めていくか、ということである。

磯田委員が言うように、私たちは、細かなところまでは検討できない。当面は課題の整理である。その中で、市で予算化する必要がある場合は、予算化に向けて動く必要があるが、そうでなければ、ゆっくりと進めていけばよいと思う。去年は、初めて「話し合う会」を開催し、平成 28 年度に予算化が必要な項目があったので、市へ予算化をお願いしたが、中・長期については、私が見る限り、すぐに予算化するような項目はないので、それは、時間を掛けて進めていきたい。ただし、J T の跡地利用の問題は、予算化ではなく、然るべきタイミングで、地域協議会や地域住民の考えを担当課へ伝えないといけない。それ以外については、皆さんからの意見のとおり、大まかに課題を整理して、時間を掛けて話をしていく。ただ、解決策まで考えると、時間が足りなくなるので、とりあえず全体的に課題を把握する、ということである。

**【磯田委員】**

私の思いとしては、課題があり、何故そうなっているのか、こうしていったらよいのではないか、という所まで協議したほうがよいと思っている。なんとなく、直江津のまちをこう動かしていきたい、というメッセージを住民の皆さんに伝えられるようなレベルまで議論していったほうがよい。

**【田村雅春委員】**

いろいろな課題を整理していくのは地域協議会であり、課題解決に向けて、住民の皆さんに伝えていかななくてはいけない。

もう一つは、行政を巻き込まないと進まない課題が多い。もちろん、市民の皆さんへも説明しなくてはいけない。

**【小林委員】**

昨年、新水族博物館の活用の取組を「短・中・長期」でまとめた意見は、行政に何を望んでいくか、という視点でやってきた。今回は、新水族博物館に関わらず問題点を出していただきたい、ということで進めている。その中から、行政の考えを聞きたいものをピックアップして行って、それを整理することからやってみたらどうか。



今年の「話し合う会」で出された意見の中に「地域協議会として、頑張っている人に寄り添いながら、まちづくりのリーダーシップをとる」とあるが、では、どういう団体に、どう寄り添い、何ができるのか、ということもあるので、いろいろな団体の取組を勉強しながら地域協議会内で話し合っていけばよいのではないかと。

#### 【竹内副会長】

地域協議会内で課題を決めていくと、私としては、ミスリードをしていないかどうか少し不安を感じてしまう。私たちは、今回、「話し合う会」に参加された方たちの意見を聞いて、まとめ、今後活かしていきたい、という部分はあるが、地域協議会は、「いろいろな方から話を聴く」ことを根本に持つことが「話し合う会」だと理解している。その後、出された意見を揉んでいくのはよいが、その意見に対して課題を決めるということとはせず、ゆっくりと地道に進めていきたいと私は思っている。

今回出していただいた意見を、昨年度と同様に「短・中・長期」にまとめ、行政へ伝えるだけでよいのではないかと。

#### 【町屋委員】

竹内副会長が言っていることは、確かにそうである。結局、皆さんにとっての結論がどこか、ということだと思う。行政へ持っていくのか、自分たちで課題解決に向かって事業を行うのか、皆さんの捉え方が違うのだと感じた。私は、今回の「話し合う会」について、課題の抽出・問題点の出し合いだと思っている。解決に向かうアプローチは、地域住民の方から発信してもらい、それに対し、地域協議会が地域活動支援事業等によって支援していく。私たちが、課題解決に向けて何か事業をすることではないが、住民団体の活動が、課題解決に向けて当てはまるものか議論するなど、こうした議論を外に発信することによって、住民から「私たちはこういう取組ができる」という声が出てくるのは良いことだと思う。

#### 【青山義一委員】

私は今回初めて、「話し合う会」に参加したが、当初、会の到達点があるのだろうと思っていたが、今、話を聞いていると、いろいろな到達点の意見が出ており、私の中で、どんなふうに考えてよいのか躊躇している部分がある。

#### 【青山恭造会長】

私の考えは、今年新しく委員になられた方がいるので、委員の勉強会をしたいということである。行政において勉強したい分野の話聞いて、我々の力にしたい。まずは、

一番に意見が多かった「観光」について、勉強会を行うこととし、その際来てもらった観光振興課に、今回「話し合う会」で出た住民の意見を伝えてみてはどうか。回答を貰えば、行政が考えていること、方向性が見えてくると思う。勉強会は、来年1月以降に実施していきたいと考えている。

**【町屋委員】**

先ほどの青山義一委員の発言に対してだが、私が混乱させてしまったのなら申し訳ない。進め方を反対しているように捉えられたかもしれないが、私が言ったのは、行政にしてもらうべきことではなく、民間がすべきことがあって、それを支援するために地域活動支援事業費補助金がある、という部分に関してのことである。

**【青山恭造会長】**

今年の「話し合う会」は2回終わったが、そこで出された意見は、行政のどの部署に当てはまるのか。それを分類化し、勉強会を行いたい。

来年の1月以降、例えば、行政の担当課から、問題点についての行政の考えを聞く。すぐに回答が出ない内容もあるかもしれないが、回答が出たものから、再度、地域協議会で話し合い、行政側で予算化が必要なことは再度、行政と話し合う。行政としては、難しい課題が出てくるかもしれないが、判断は行政に委ねるということにしてはどうか。

**【増田副会長】**

確かに会長が言うように、我々は、行政がどんなことを考えているのか把握していない。いろいろな課題について、行政がどういう解決策をしているかを私たちは知る必要がある。それを知った上で、地域協議会としてどうしようか、という次のステップが出てくる。

我々は、まず、実態がどうなっているのかを、行政と意見交換をする。従来の自主的審議事項は、そのように進めてきたので、同じように進めていったら、うまくいくと思っている。

**【町屋委員】**

順番はどうなるのか。先に担当課が来て、意見交換を行うことと、地域協議会内で一度協議をして、担当課に来てもらうとでは違いが大きい。

**【増田副会長】**

行政側もランダムに課題をぶつけられては困るので、何故、この課題をぶつけるのか、となった場合、我々が共通認識を持っていないと、地域協議会としての体を成さないの

で、一度、地域協議会で協議してから担当課から考えを聞くことになると思う。

**【田村利男委員】**

例えば「観光」と言っても、いろいろな協会や組合があると思う。その方たちの名簿があれば見てみたい。事務局で作成することは可能か。

**【関川センター長】**

作成することは、できなくはないが、もう少し絞っていただきたい。例えば、菓子組合のメンバー、観光なら観光に関わっている組合、その辺りを指示していただければ確認できる。そして、何のために調べるのか、その目的も教えていただかないと難しい。

**【田村利男委員】**

「話し合う会」で出た意見に対し、参考意見として教えてもらえるような団体があれば確認したかった。

**【青山恭造会長】**

調べてほしい団体を田村利男委員から事務局へ指示すれば調べることは可能だと思う。全ての団体を調べることは難しい。

**【荒木係長】**

田村利男委員が言いたいのは、これから協議していく上で、市から情報をもらう、ということもあると思うが、今回の「話し合う会」の意見の中で、住民団体の方たちの考えも聞きたい、ということだと思う。

**【田村雅春委員】**

それは、事務局が知っていればよいことで、私たちは、そこまで知る必要はないと思う。

**【町屋委員】**

意見を聞いたかったら、事務局へお願いし、アンケート等を取るのはいいが、私たちがやる、というのは違うスタンスになると思う。「協議会に来てください」ということもあるかもしれない。だが、それは事務局を通してである。

**【田村利男委員】**

では、それを事務局にお願いすることは可能か。

**【関川センター長】**

必要であれば対応させていただく。

**【丸山委員】**

行政に問題を投げ掛ければきちんとした回答が貰えるかもしれないが、住民団体や菓子組合の方たちに問題を投げ掛けても、任意の団体なので、回答が返ってこないかもしれない。

**【小林委員】**

例えば「直江津旅館組合」や「直江津飲食店組合」に意見を聞く必要性があれば、呼んで話を聞くということは良いと思っている。

**【中澤委員】**

確かに、議論する時に必要であれば、来ていただき、話を聞けばよいと思う。

先ほどの話に戻るが、「到達点」というのをあまり意識しないほうがよいのではないか。昨年度も「予算化しなければいけない」ということに捉われていたが、この時期では無理があると思う。「結論」を目標にせず、先ほども出ていたが、市の担当課から話を聞き、我々はこれからどうしたらよいのか、という議論の参考資料として、今回の「話し合う会」の意見を使わせてもらう、ということではよいのではないか。

**【青山恭造会長】**

「話し合う会」で出てきた意見を行政に伝え、行政として、どういう考えを持っているか、ということを確認すればよい。

**【田村雅春委員】**

行政に伝える前に、協議会内できちんとまとめないと行政は動かないと思う。

**【青山恭造会長】**

まず、次回の協議会内で意見を分類すれば、具体的な問題がぶつけられると思っている。

**【磯田委員】**

出していただいた意見を、そのまま行政に伝えても、あまり良いことはないと思う。例えば、都市計画・観光・福祉分野など、第6次総合計画からマスタープランの上位計画に沿ったものを教えてもらいながら、直江津区のまちづくりの全体像のベースとして把握しておく必要がある。その中で、出てきた課題を整理していかないと、行政を巻き込んでいくことはできない。

**【青山恭造会長】**

来年の1月以降、話を聞きたい担当課を決め、意見交換を行う。その際、最初からただ単に意見を伝えるのではなく、「話し合う会」で出た意見をまとめたものの中から「直

江津区には、こういう課題がある」と投げ掛けることで、住民の意見が活かされると思う。

次回の協議会は、「話し合う会」が全て終了しているので、出していただいた意見を分類し、それを1月以降の勉強会の際に行政に確認する、という流れで行きたいと思う。

**【町屋委員】**

今回の意見は、新水族博物館整備課に関わることが多い。だが、新水族博物館整備課にまちなかのことを聞くと、「私たちの担当ではない」と言われてしまう。関連する全ての課に来てもらうことが可能なのかどうかは分からないが、そこで話が終わってしまうこともある。

**【増田副会長】**

先のことまで細かく決めていくと、話が進まないのので、まず、今、会長が言った方法で進めてみてはどうか。

第一段階としては、出してもらった意見を分類し、それを皆さんに見ていただき、確認していただいた上で、次のステップに進めばよいのではないかと。

**【磯田委員】**

11月19日（土）に出された意見を早めにまとめていただきたい。

**【荒木係長】**

承知した。

**【青山恭造会長】**

では、次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【荒木係長】**

- ・11月7日（月）に開催された会長会議で話されたことについて報告  
竹内副会長より、会に出席された感想等があれば述べていただきたい。

**【竹内副会長】**

11月7日（月）午後3時30分から、直江津学びの交流館で青山恭造会長の代理として出席した。全28区で女性の出席は2名だけだった。

当日は3グループに分かれ、課題を決め、どういうふうに取り組むかを話し合った。

私はA班だったが、「地域の声を聴くために取り組んでいること」というテーマで、皆さんと意見を出し合った。その中で「若い世代である、中学生や高校生から意見を聞いている」という区もあった。直江津区は、昨年「新水族博物館を活用した直江津のまち

づくりを話し合う会」を3回、今年は、新水族博物館の活用に関わらない「話し合う会」を3回開催し、住民と住民団体、女性から話を聞く機会を設けている、という話をし、「地域協議会だより」で周知し、住民の皆さんの意見を吸い上げるということをしている、という話をしてきた。

感想としては、合併後の上越市と合併前の上越市の考え方が違うのだなと感じた。話をしていて一番驚いたのは、「地域協議会は、高田区と直江津区は特別だよ」とおっしゃられた方がいて、私は、良い意味で直江津区を認めてくれているのか、と思いながら聞いていた。

今後の地域協議会に関することは、資料として、本日、配布してあるが、地域協議会に関する課題や改善策を出した場合、市の方針や考え方が、すぐに出てくる。会長が持ち帰り、会長が地域協議会で話し合ってください、という意見もあった。それは当然だと思っている。特に多かったのが、費用弁償の1,200円を見直したほうがよいのではないか、ということだった。最後に、土橋副市長から話があったが、その中で「地域協議会の定義を見直す必要があるのかもしれない、今後、変更するかもしれない」というような話をしていた。以上である。

**【青山恭造会長】**

この件について、何かあるか。

**【田村雅春委員】**

費用弁償は、会議何回分の予算が盛ってあるのか。

**【関川センター長】**

8回から10回分である。

**【青山恭造会長】**

他に意見がないため、引き続き、事務局へ説明を求める。

**【荒木係長】**

- ・12月11日（日）に開催予定の地域活動フォーラムについて説明
- ・委員の勉強会について説明  
1月から3月までの間で開催予定
- ・委員の視察研修について説明
- ・次回協議会の事務局案：12月20日（火）午後6時～  
引き続き自主的審議事項について協議していただきたい。

それと、J Tの跡地利用について、産業振興課より進捗状況の報告をしていただきたいと考えている。

**【青山恭造会長】**

- ・次回協議会：12月20日（火）午後6時～

次に、委員の視察研修についてだが、希望する場所があれば、早めに事務局へ連絡するようお願いしたい。

**【青山恭造会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。